

## はじめに

近年、グローバル化や高度情報化の更なる進展などに伴い、社会の変化は加速度を増し、複雑で予測困難となってきており、学校教育においては、子どもたちに多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓き、持続可能な社会の創り手となるための資質・能力を一層確実に育成することが求められています。

このような中、平成29年3月、新学習指導要領が公示され、旭川市教育委員会では、同年11月に本市の学校教育が目指す方向性などを踏まえ、「社会に開かれた教育課程」を重視することなど、各学校における新学習指導要領の趣旨を踏まえた教育課程の編成に資するよう、「旭川市立小・中学校教育課程編成の指針」を作成しました。

本指針の作成に当たり、「社会に開かれた教育課程」を実現するため、学校関係者だけでなく保護者や地域の代表の方、経済界の方や学識経験を有する方から構成する懇談会を開催し、いただいた御意見や本市で推進している小中連携・一貫教育の趣旨を踏まえ、義務教育9年間を見通した計画的かつ継続的な教育課程が編成されるよう、「総則編」、「特別の教科 道徳編」、「総合的な学習の時間編」、「特別活動編」について、小学校と中学校を合わせた構成としたところです。

令和元年12月に、令和2年度からの小学校における新学習指導要領の全面実施等に対応するため、「総則編」の一部を改訂するとともに、小学校の年間指導計画例等を掲載した「各教科等編」を作成したところですが、この度、令和3年度からの中学校における新学習指導要領の全面実施はもとより、GIGAスクール構想や学校の新しい生活様式を踏まえ、「総則編」及び「各教科等編」を一部改訂し、市内の先生方の協力を得て、ICTの効果的な活用例や育成を目指す情報活用能力を位置付けた小・中学校の年間指導計画例等を作成いたしました。

各学校において、家庭や地域社会との協力の下、創意工夫を生かした特色ある教育活動を一層推進し、本市の子どもたちが、新しい時代に求められる資質・能力を身に付けることができるよう、本指針を教育課程の編成・実施やカリキュラム・マネジメントに効果的に活用していただくようお願い申し上げます。

令和2年12月

旭川市教育委員会教育長

黒 蕨 真 一